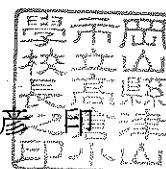


(様式)

平成25年度 津山市立高倉小学校 学校評価書

校長 久下 和彦



1 自己評価

I 評価結果

- ・学校生活を楽しんでいると感じ、何でも相談できる人がいると感じる割合は高く、学校生活が落ち着いており、有用感のあるくらしぶりになっていると考えられる。
- ・あいさつについては、児童の多くが相手に伝わるあいさつをしていると感じており、今後も取り組みを継続したい。
- ・授業がよく分かるという児童の割合は90%と高く、授業改善の効果が始まったが読書など家庭での取り組みにつなげることは、不十分な所もあった。
- ・運動量の確保と充実については、冬季の持久走や夏季の水泳など、全校をあげての取り組みに効果が見られだし、新体力テストの数値も向上してきた。しかし、柔軟性や握力については課題があった。
- ・児童は地域の方々との学習が楽しいと感じており、教育効果も上がってきている。

II 分析・改善方策

- ・授業の充実では「魅力ある授業づくり」の研究の2年次にもなり、授業改善に取り組む体制を確かなものし、いっそうの充実となるよう研究を深めたい。
- ・学習の基盤をしっかりとる意味でも、家庭学習の重要性を保護者に伝えるとともに、宿題や自主学習の内容の工夫など、学校での指導も重ね、家庭との連携が児童の学習面の理解や意欲につながるよう取り組みを進めたい。
- ・体力面では充実してきたが、柔軟性や握力など本校児童の課題を解決するよう、授業の前半にサーキットトレーニング等を取り入れ、さらなる体力面の向上を目指したい。また、昨年も実施した個人に応じた診断書も、有効活用できるよう取り組みを進めたい。
- ・地域の方々に学ぶ学習は学習効果も高く、今後も学校支援地域本部と連携して、人材の確保を進めたい。また、学校の教育課程の実施に関わって、支援をいただきたい人材について、お願いも出していきたい。

2 学校関係者評価委員会

米井 寿之 (前連合町内会長・前高倉支部長)	田部美津子 (民生児童委員)
東原 英一 (連合町内会長・高倉支部長)	下山 智久 (元高倉小PTA会長)
米井 瑞臣 (前高倉公民館長・評価委員長)	大國 博之 (元高倉小PTA会長)
梶並 里美 (青少年育成指導員)	眞木 篤 (高倉小PTA会長)
二木 栄一 (高倉公民館長)	

3 学校関係者評価

- ・児童の心の面では、下学年にやさしく教える姿や、上級生同士の協力の姿など、評価をいただいたが、あいさつなどは、学校では出来ていても、地域で過ごしているときは、なかなか行動に結びつかないという指摘もいただいた。あいさつ運動については学校とPTAで連携して、保護者も子どもも共に取り組める形を構築し、さらに充実させるよう取り組みたい。
- ・ノーメディアの定例化など家庭と一体化した取り組みをすることで、帰宅してからの学習時間を確保するようご指導いただいた。25年度もPTAとの連携で家庭学